

# 保存会だより

発行  
徳高人形・  
御船祭保存会

## 「どうする家康」

### 大河ドラマ館と三保の松原の旅

新型コロナウイルス感染症流行により令和元年以来四年ぶりとなる研修旅行が令和五年七月二十一日実施された。

中央道より南アルプス市へと進み一昨年開通した中部横断自動車道を進みあつと言う間に静岡市清水に着き世界文化遺産「富士山」構成資産である三保の松原へ向かった。まず天女が降りた羽衣伝説のゆかりの御穂神社を参



拝し、そこから松並木の間を通る整備された「神の道」を歩き海岸近くに有る三代目の羽衣松を見学し、枯れて残されている二代目の松代目の松は復活を祈りそのままにさ

れていると記されていた。天気が良ければその浜より富士山が望めるが生憎裾野しか見ることが出来なかった。

昼は清水港を見ながらマグロの刺身や桜エビ、生しらすの静岡の海の幸を満喫し、海産物のお土産の買い物をした。

静岡市の総氏神であり家康が元服式を行った縁深き静岡浅間神社へ参拝し、その境内にある「どうする家康」大河ドラマ館を見学した。ドラマ出演者の役柄パネルが展示され、今川義元・氏真役の野村万斎・溝端淳平がドラマ撮影で実際に着た衣装が展示されており目にすると地味に感ずる物だった。家康の年表には現在のドラマ進行時期が示されておりドラマ見ている人は今後の展開を予想して話をしていった。

続いて家康が晩年を過ごした駿府城公園横に一月にグランドオープンしたばかりの静岡市歴史博物館を見学、館内に入るとすぐに建設に当たり発掘された戦国時代末期の道と石垣遺構が露出展示され、静岡に関わる家康を中心としてプロジェクト等を使用した最新技術を使った展示に驚きながら見学した。中でも鎧を制作しているビデオが流されており人形教室の人が「こう作るんだな。」と興味深く見ていたが、館内全体を見て廻るには時間が足りず残念がる人が多かった。

バス移動中、中山隆さんより静岡や家康の説明をして頂き旅の参考となつて、暑い中では有ったが風もあり比較的動き易く四年ぶりの研修旅行は四十名もの多くの人の参加により無事終えることが出来た。

今後も研修旅行を行い人形制作の参考となり、会員相互の親睦を深めるべく計画してまいります。

## 四年ぶり賑やかに 御船祭行われる



▲等々力町 決戦関ヶ原

令和二年新型コロナウイルス感染症が流行してから祭典のみ斎行された穂高神社例祭御船祭が五年五月政府の新型コロナウイルスが感染症五類に引き下げられたことにより九月二十七日四年ぶりに境内に五艘の御船が勢揃いして賑やかに行われた。

当日は平日にも関わらず境内には大勢の参拝者が訪れ久々の御船のぶつかり合いに感動していた。

御船を奉納する各区の役員関係の方々には完全には終息していない新型コロナウイルスに対して細心の注意を払い奉納して頂いた事に感謝申し上げます。

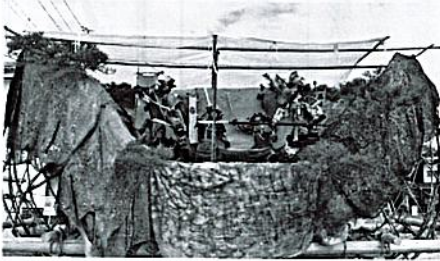




▲両町大人船 椿伝承



▲穂高区大人船 阿曇比羅夫出陣



▲穂高町 三方原の戦い



▲穂高区 西遊記三蔵法師旅にでる

穂高区	穂狭間の戦い	魏石鬼八面大王
穂高町区	桶狭間の戦い	桃太郎の冒険譚其之二

なお、等々力町区・穂高町区の両子供船及び大人船は令和三年度地域文化財総合活用推進事業文化芸術振興費補助金により御船の改修を行った後の初めての披露となった。

また御船祭に先立ち十日に行われた子供祭は残暑厳しい中巡航コースを変更したり祭典時間を変更して行われた。

子供祭 九月十日 子供船

暖かな秋 人形展示行われる

当会の第十四回穂高文化協会穂高文化祭展示が穂高神社北神苑にて十月二十三日～十一月十二日の期間展示された。新型コロナナウイルス感染症が五類感染症に移行して初めての展示となり、穂高神社例祭も賑やかに斎行され、神社や安曇野に訪れる人々の数も多くなっている時の開催であった。

二十三日の開会式で大内会長から「本年は子供祭の日が遅く例祭に近く斎行され、展示への準備期間が短くなり心配していたが立派に飾ることができ感謝申し上げます。」と協力に御礼を述べた。



▲川中島の戦い



▲浦島太郎の伝説

各場面説明において牛流教室の川中島の戦いは「牛流弘次人形師が『川中島の戦いは基本中の基本。』と常々言われていた。しかし自分たちで行ってみると、まだまだであると感じた。信玄の兜は本来インドのヤクの毛で作られていたと伝えられていたが高額であるため紐を解いて使用した。」と説明された。保尊教室の浦島太郎の伝説は「海の中はこのような形である」と想像しながら場面にて表現した。時間の都合もあり各自自宅で作ったりした。」と苦労があったことが説明された。小平教室の高遠城攻防は「県歌信濃の国にて偉人として出てくる仁科五郎信盛の戦いの場であり、郷土の戦を知ってもらおう機会としたい。」と説明された。

展示期間中は天気も良く十一月三日にはマルシェが行われ、四年ぶりに十一月十一・十二日には「安曇野食の感謝祭」が神社境内にて行われるなど多くの人が見学していた。

また開会式に先立ち穂高ライオンズクラブ（足立伊織会長）より活動援助の寄付金を頂いた。



穂高南小学校玄関に飾る人形は春休み期間中の三月三十日に保尊教室により飾り替えが行われ「姨捨山伝説」の場面が飾られた。親が子を思い子が親を思い、そして年輩者の親の知恵や経験の大切さを考える故事により、親子や人の繋がりの強さの大切さを子供達に伝えている。

穂高駅では四月二十三日小平教室により「伊達政宗出陣の場」で小田原征伐に向けて出陣する場面が展示された。作業後すぐに乗降客が展示に見入っている姿があり、教室の人が「一年間穂高駅を訪れる多くの人達が展示を見て穂高人形に興味を持ってもらえたら。」と期待をしていた。

**穂高南小学校と  
穂高駅の穂高人形**



▲高遠城の攻防



民館にて八名の参加者を対象として小平教室により刀作りが開催された。刀の形に整えた木材にアルミテープを貼り、柄には色取り取りの紐を巻き付け刀を作った。指導を行った教室の人は「子供は器用だわ。」と話し思ったより時間がかからず完成させた子供達に驚いていた。



**子供達の声賑やかに  
講座開かれる**

令和四年十二月十七日等々力町公民館にて小学生を対象として短剣の柄巻き作りが行われた。参加者十二名が事前に牛流教室で準備した木製短剣に黒と白の紐を巻き付け、最後は鋳を打ち付け四十分ほどで完成させた。

子供達は「これで人切れる。」など話し、完成した短剣でチャンバラをしていた。指導した教室の人は「子供は上手だわ。」「上手いものだ。もう出来たか。」など子供の器用さに感心の声が聞かれた。

この講座は新型コロナウイルス感染症の流行前に企画していたが実施できず、用意してあった物を使い実施された。

その他にも令和五年十一月十八日穂高町公民館にて八名の参加者を対象として小平教室により刀作りが開催された。刀の形に整えた木材にアルミテープを貼り、柄には色取り取りの紐を巻き付け刀を作った。指導を行った教室の人は「子供は器用だわ。」と話し思ったより時間がかからず完成させた子供達に驚いていた。



令和六年一月七日穂高区田中公民館にて保尊教室により三十名の参加者を対象として海のジオラマ作りが開催された。あらかじめ海の中を摸したジオラマセットに用意された岩、昆布、ヒトデを色づけし、カニの足を付け、魚の絵を切り抜き各自作業を進め色鮮やかなジオラマを完成させた。

当会は今後も各地区育成会等と連絡を取り若年層講座にて次世代を担う子供達に穂高人形や御船祭に興味を持って理解を深めてもらうべく行つて参ります。



この一年間人形や御船の飾りに必要な着物類・なるの寄付をお寄せ頂き心より御礼申し上げます。

**着物・「なる」御寄進御礼**

副会長 小林信二(等々力) 再任  
 同 小口 稔(穂高町) 新任  
 同 尾台 鞆一(穂高) 再任

**新会長決まる**

五月十五日五年度当会総会が開かれ新役員が選出され、二期四年会長を務めて頂いた小林千尋会長(穂高町)より大内善司新会長(等々力町)へとバトンが引き継がれた。(任期二年 五・六年度)



**会員募集**

安曇野の伝統文化である穂高人形や御船祭を後世に守り伝えてゆくべく日頃活動している当会では、会員募集をしています。

本会にはいつでも入会頂けます。

年会費 一、〇〇〇円

問い合わせ 事務局 穂高神社社務所内

〇二六三―八二―二〇〇三

安曇野市穂高六〇七九

着物九十五枚 小物二十六点 萱四枚  
 安曇野市 松原真理子・那須幸子  
 安曇野市 清澤宣昭・中嶋靖子  
 安曇野市 山崎理美  
 栃木県 塩谷明美  
 松本市 世古欽也  
 東京都 吉田美穂  
 東京都 塚原敦子

着物・萱類等については寄付を引き続き事務局穂高神社社務所にて受付けておりますので、今後もご協力を宜しくお願い致します。

五年はあづみ野カントリークラブのご厚意により、敷地内の木材「なる」の提供を受け等々力町区、穂高町区子供船制作に使用させて頂きました。

また今後も御船制作に必要な木材「なる」の木の情報を探しておりますので併せて事務局にご連絡をお願い致します。